

積算基準	土木
現場中間検査	不要
工場等派遣中間検査	不要
樹木保険加入	不要

工 事 設 計 書

事業年度	令和 7年度			
設計年月	令和 年 月			
予算科目	款	項	目	節
工事場所	京都市山科区川田清水焼団地町他地内			
路線名又は河川名等				
工事名	舗装道補修工事（山科上花山経25号線（新大石道））			
工期	契約日の翌日から160日間			
事業課（所）名	東部土木みどり事務所	単価使用年月	令和 年 月	
工事番号		歩掛適用年月	令和 年 月	
変更回数		基準適用年月	令和 年 月	
主工種		単価地区		
前払金支出		調整区分		

京都市 建設局

チェック欄	

工 事 概 要

工事延長				m	230
舗装工	m2	1,672	現場打街渠工	m	185
縁石工	m	174	防護柵工	m	16
区画線工	式	1	構造物撤去工	式	1

施 工 理 由

本工事は、山科上花山経25号線（新大石道）において、損傷の激しい区間の舗装を補修することにより、通行車両の安全を確保するとともに、沿道環境の改善を図るものである。また、区間内の交差点の形状を変更することにより、歩行者の安全を確保するものである。					
--	--	--	--	--	--

		設計額		請負額	
		金額	増減額	金額	増減額
工	事	前回	円	円	円
		今回	円	円	円
内	工 事 価 格	前回	円	円	円
		今回	円	円	円
訳	消費税相当額	前回	円	円	円
		今回	円	円	円
支	給 品 費	前回	円	円	円
		今回	円	円	円

積算参考資料（間接費補正一覧）

単 価 使 用 年 月	2025年6月	
歩 掛 適 用 年 月	2025年6月	
基 準 適 用 年 月	2025年6月	
単 価 地 区	2601: I 地区	
調 整 区 分	本附帯工事	
共通仮設費（率計上）		
主 た る 工 種	06:舗装工事	
施 工 地 域 等 補 正	大都市（2）	1.5
I C T 施 工 補 正	補正なし	1.0
週 休 2 日 補 正	4週8休以上(通期)	1.02
現場管理費		
施 工 地 域 等 補 正	大都市（2）	1.2
I C T 施 工 補 正	補正なし	1.0
週 休 2 日 補 正	4週8休以上(通期)	1.03
一般管理費		
前払金支出割合による補正	補正を行わない	1.00
財団法人等による補正	補正を行わない	1.00
契約保証に係る補正率	金銭的保証	0.04%

見積参考資料

積算で採用した見積等の単価は下表のとおりです。

※見積等項目名が空欄の場合、細別のすべてを含む単価を示しています。見積等項目名を記載している場合は、細別のうち見積を採用した部分の単価を示しています。

[illegible]

設計内訳書 (1)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
道路修繕			式	1				
道路土工			式	1				
掘削工			式	1				
掘削 （路盤）		土質:土砂,施工方法:上記以外(小規模),施工数量: 小規模(標準以外)	m3	10				(概)
舗装工			式	1				
路面切削工			式	1				
路面切削 夜間		施工区分・平均切削深さ:全面切削6cm以下(4000m2 以下),段差すりつけ撤去作業:有り	m2	1,240				
切削オーバーレイ工			式	1				
切削オーバーレイ 夜間		平均切削深さ:7cmを超え12cm以下,舗設層数:二層, アスファルト材料種類(一層):各種,アスファルト材料種類(二層):各種	m2	1,240				
オーバーレイ工			式	1				
表層(車道・路肩部) 夜間		材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格: 再生密粒改質Ⅱ型(20)目標DS≧3000,舗装厚:50m m,平均幅員:3.0m超	m2	1,240				
アスファルト舗装工(車道部)-1			式	1				
不陸整正 夜間		補足材:有り,補足材種類・規格:再生粒度調整碎石 RM-30,補足材整正厚:29mm以上34mm未満	m2	62				

設計内訳書 (1)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
基層(車道・路肩部) 夜間		材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格: 再生粗粒度アスコン(20),舗装厚:50mm,平均幅員:1.4 m以上3.0m以下	m2	62				
表層(車道・路肩部) 夜間		材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格: 再生密粒度アスコン(13),舗装厚:40mm,平均幅員:1.4 m以上3.0m以下	m2	62				
アスファルト舗装工(車道部)-2			式	1				
不陸整正 夜間		補足材:有り,補足材種類・規格:再生粒度調整碎石 RM-30,補足材整正厚:29mm以上34mm未満	m2	180				
上層路盤(車道・路肩部) 夜間		路盤材種類:再生粒度調整碎石 RM-30,仕上り厚:6 0mm	m2	19				
基層(車道・路肩部) 夜間		材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格: 再生粗粒度アスコン(20),舗装厚:50mm,平均幅員:3.0 m超	m2	199				
表層(車道・路肩部) 夜間		材料種類:各種(2.30以上2.40t/m3未満),材料規格: 再生密粒度アスコン(13),舗装厚:40mm,平均幅員:3.0 m超	m2	199				
アスファルト舗装工(仮舗装)			式	1				
上層路盤(車道・路肩部) 夜間		路盤材種類:路盤材(瀝青安定処理材各種),路盤材 規格:再生瀝青安定処理(25),仕上り厚:250mm	m2	78				(概)
区画線工			式	1				
区画線工			式	1				
熔融式区画線 実線・黄・15cm 夜間		施工方法区分:熔融式手動,規格・仕様区分:実線 1 5cm,塗布厚:厚1.5mm,排水性舗装:無し	m	150				(概)
熔融式区画線 セアラ・白・45cm 夜間		施工方法区分:熔融式手動,規格・仕様区分:セアラ 45cm,塗布厚:厚1.5mm,排水性舗装:無し	m	240				(概)

設計内訳書 (1)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
溶融式区画線 ゼブラ・白・15cm 夜間		施工方法区分:溶融式手動,規格・仕様区分:ゼブラ 15cm,塗布厚:厚1.5mm,排水性舗装:無し	m	65				(概)
溶融式区画線 「停止禁止」表示 夜間		施工方法区分:溶融式手動,規格・仕様区分:矢印・ 記号・文字 15cm換算,塗布厚:厚1.5mm,排水性舗装 :無し	箇所	1				(概)
構造物撤去工			式	1				
防護柵撤去工			式	1				
防護柵(横断・転落防止柵)撤去 横断防止柵-1			m	2				(概)
防護柵(横断・転落防止柵)撤去 横断防止柵-2			m	3				(概)
コンクリート削孔(コンクリート穿孔機)		128mm以上160mm未満, 200mm以上400mm以下	孔	1				(概)
構造物取壊し工			式	1				
コンクリート構造物取壊し		構造物区分:無筋構造物, 工法区分:機械施工	m3	18				(概)
舗装版切断 夜間		舗装版種別:アスファルト舗装版,アスファルト舗装版厚:15cm を超え30cm以下	m	169				(概)
舗装版切断 夜間		舗装版種別:アスファルト舗装版,アスファルト舗装版厚:15cm 以下	m	276				(概)
舗装版破碎 夜間		舗装版種別:アスファルト舗装版, 舗装版厚:25cm	m2	78				(概)
舗装版破碎 夜間		舗装版種別:アスファルト舗装版, 舗装版厚:9cm	m2	327				(概)

設計内訳書 (1)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）				事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
舗装版破砕 夜間	舗装版種別:アスファルト舗装版, 舗装版厚:5cm	m2	116				(概)
ブロック舗装撤去工		式	1				
特殊ブロック撤去	ブロック規格:視覚障害者誘導用ブロック	m2	10				(概)
運搬処理工		式	1				
土砂等運搬	土質:土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3	2				(概)
残土等処分		m3	2				
殻運搬(路面切削) 夜間	殻種別:アスファルト殻	m3	187				(概)
殻処分 夜間	殻種別:アスファルト殻(切削)	m3	187				
殻運搬 夜間	殻種別:アスファルト殻	m3	55				(概)
殻処分 夜間	殻種別:アスファルト殻(掘削)	m3	55				
殻運搬	殻種別:コンクリート殻(無筋)	m3	18				(概)
殻処分	殻種別:コンクリート殻(無筋)	m3	18				
廃路盤材運搬		m3	13				(概)

設計内訳書 (1)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
廃路盤材処分			m3	13				
現場発生品運搬		発生材種類:スクラップ	t	0.05				(概)
スクラップ		ヘビ°-H3	t	-0.05				
仮設工			式	1				
交通管理工			式	1				
交通誘導警備員		B	人日	10				
交通誘導警備員 夜間		B	人日	55				
概略発注工			式	1				
概略発注工			式	1				
概略発注工			式	1				
概略発注工 設計内訳書の区分別の概略発注工 を除く直工の27.7%以内			式	1				(概)を参照
直接工事費			式	1				
共通仮設			式	1				

設計内訳書 (1)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要	
共通仮設費		式	1					
運搬費		式	1					
建設機械運搬費	路面切削機(ホイール廃材積込付)2.0m, 6km, 無, 無	台	2					
共通仮設費（率計上）		式	1					
純工事費		式	1					
現場管理費		式	1					
工事原価		式	1					
一般管理費等		式	1					
工事価格		式	1					
消費税額及び地方消費税額		式	1					
工事費計		式	1					

設計内訳書 (2)

工事名	舗装道補修工事（山科上花山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
道路修繕			式	1				
舗装工			式	1				
アスファルト舗装工(歩道部)-1			式	1				
表層(歩道部)		材料種類:再生密粒度アスコン(13), 舗装厚:50mm, 平均幅員:1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)	m2	53				(概)
アスファルト舗装工(歩道部)-2			式	1				
下層路盤(歩道部)		路盤材種類:再生クラッシュラン RC-30, 仕上り厚:95mm	m2	13				(概)
表層(歩道部)		材料種類:再生密粒度アスコン(13), 舗装厚:50mm, 平均幅員:1.4m以上	m2	13				(概)
透水性舗装工			式	1				
フィルター層		材料種類:山砂(洗い・真砂土), 仕上り厚:50mm	m2	77				ガードパイプ基礎分 控除
下層路盤(歩道部)		路盤材種類:再生クラッシュラン RC-30, 仕上り厚:100mm	m2	77				ガードパイプ基礎分 控除
表層		材料種類:開粒度アスコン(13), 材料規格:開粒度アスコン(13), 平均幅員:1.4m以上2.4m未満, 舗装厚:40mm	m2	84				
ブロック舗装工			式	1				
特殊ブロック舗装 (視覚障害者誘導用ブロック)		作業区分:再利用設置	m2	10				(概)

設計内訳書 (2)

工事名	舗装道補修工事（山科上花山経25号線(新大石道)）				事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
特殊ﾌﾟﾛｯｸ舗装 (視覚障害者誘導用ﾌﾟﾛｯｸ)	作業区分:設置,ﾌﾟﾛｯｸ規格:30cm×30cm	m2	11				(概)
排水構造物工		式	1				
現場打街渠工		式	1				
現場打街渠 一般部・切下部(乗入部) ・段差部(乗入部)		m	136				(概)
現場打街渠 切下部(横断部)		m	43				(概)
現場打街渠 段差部(横断部)		m	6				(概)
縁石工		式	1				
縁石工		式	1				
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸ 一般部(マウントアップ)	ﾌﾟﾛｯｸ規格:B種(180/205×250×600)	m	7				
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸ 一般部(セミフラット)	ﾌﾟﾛｯｸ規格:PL-5B	m	19				
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸ 切下部(乗入部)	ﾌﾟﾛｯｸ規格:市型B種 切下(100)	m	95				
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸ 切下部(横断部)	ﾌﾟﾛｯｸ規格:市型B種 切下(80)	m	42				
歩車道境界ﾌﾟﾛｯｸ 段差部	ﾌﾟﾛｯｸ規格:PL-5B 段差用	m	7				

設計内訳書 (2)

工事名	舗装道補修工事（山科上山経25号線(新大石道)）					事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
歩車道境界ブロック 段差部(2本落ち)		ブロック規格:市型B種 段差 2本落	m	4				
防護柵工			式	1				
作業土工			式	1				
床掘り (参考数量)		土質:土砂	m3	20				(概)
埋戻し (参考数量)		土質区分:土砂, 土質:土砂	m3	20				(概)
路側防護柵工			式	1				
ガードパイプ			m	11				
ガードパイプ 基礎			基	10				(概)
防止柵工			式	1				
転落(横断)防止柵 横断防止柵-1		柵高:0.8m, 作業区分:プレキャストコンクリートブロック建込	m	2				(概)
転落(横断)防止柵 横断防止柵-2		柵高:0.8m, 作業区分:プレキャストコンクリートブロック建込	m	3				(概)
仮設工			式	1				
交通管理工			式	1				

設計内訳書 (2)

工事名	舗装道補修工事（山科上花山経25号線(新大石道)）				事業区分 工事区分	道路維持・修繕 道路修繕	
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	数量・金額増減	摘要
交通誘導警備員	B	人日	40				
概略発注工		式	1				
概略発注工		式	1				
概略発注工		式	1				
概略発注工 設計内訳書の区分別の概略発注工 を除く直工の62.8%以内		式	1				(概)を参照
直接工事費		式	1				
共通仮設		式	1				
共通仮設費（率計上）		式	1				
純工事費		式	1				
現場管理費		式	1				
工事原価		式	1				
一般管理費等		式	1				
工事価格		式	1				

設計内訳書 (2)

[illegible]

特記仕様書（個別工事編）

工事名 舗装道補修工事（山科上花山経 25 号線（新大石道））

工事場所 京都市山科区川田清水焼団地町他地内

1 一般事項

第 1 条（適用）

本工事の施工に当たっては、「設計図書」によるほか、土木請負工事必携（以下「請負工事必携」という。）（令和 6 年 8 月京都市）」及び「特記仕様書（全工事共通編）（令和 6 年 8 月）」によらなければならない。

なお、本工事施工現場には、必ず請負工事必携、特記仕様書（全工事共通編）及び本特記仕様書を常備しなければならない。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」⇒「監督・検査」⇒「工事（土木、舗装、樹木等）の仕様書、様式等」参照

請負工事必携・特記仕様書（全工事共通編）

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000292439.html>

第 2 条（「建設キャリアアップシステム活用モデル工事」の実施）

- 1 本工事は「京都市建設局建設キャリアアップシステム活用モデル工事」の対象（ただし、受注者希望方式）であり、「京都市建設局建設キャリアアップシステム活用モデル工事試行要領」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000338803.html>）に基づいて実施する。
- 2 受注者は、契約後速やかに、建設キャリアアップシステムの活用を希望するか否かを、発注者へ通知し、その内容を工事打合せ簿に記録すること。
- 3 建設キャリアアップシステムの履行状況を確認できた場合は、工事成績評価の考査項目「創意工夫」において、加点対象となる。

第 3 条（受注者希望方式による「月単位の週休 2 日」の実施）

- 1 本工事は「京都市建設局週休 2 日工事」の対象（受注者希望方式による「月単位の週休 2 日」）であり、「京都市建設局週休 2 日工事実施要領」
<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000322908.html>）に基づいて実施する。ただし、「通期の週休 2 日」は必須である。
- 2 受注者は、契約後すみやかに、「月単位の週休 2 日」の実施を希望するか否かを、発注者と協議し、その内容を工事打合せ簿に記録すること。また、施工計画書の作成に当たっては、「月単位の週休 2 日」の実施内容を反映させること。
- 3 「月単位の週休 2 日」を達成した場合は、工事成績評価の考査項目「創意工夫」において、加点対象となる。
- 4 受注者は、本市が週休 2 日の推進を目的に受注者に対して実施する「京都市建設局週休 2 日工事」に関するアンケート調査やヒアリング調査に、随時協力しなければならない。
- 5 工事標示板に「京都市建設局週休 2 日工事」（4 週 8 休以上であることを明記すること。）である旨

を明示すること（様式不問）。

第4条（前払金）

設計内訳書（１）及び同（２）の前払金は、請負代金の４０％以内とし、中間前払金は、同様に２０％以内とする。なお、前払金保証（中間前払金保証を含む。）について、電子証書の提出を可能とする。

※ 京都市入札情報館ホームページ「契約保証及び前払金保証に係る保証証書の電子化への対応について」参照（<https://www2.city.kyoto.lg.jp/rizai/chodo/info/pdf/2023/shoushodenshika.pdf>）

2 現場条件に関する事項

第5条（工事目的・現場条件等）

本工事の施工に当たっては、下記の工事目的・現場条件等に留意すること。

- 1 本工事の目的は、舗装面に生じている不陸やひび割れ等を補修することにより、通行車両の安全を確保するとともに、車両の通行により発生する振動や騒音を抑制し、沿道環境の改善を図るものである。

この目的を達成するため、施工方法、施工管理計画等を十分に検討し、その内容を反映した施工計画書を作成すること。

- 2 当該箇所は、国道1号から新十条通を結ぶ準幹線道路であり、大型車の通行も多い路線であるため、工事箇所の明示を確実に行うこと。施工範囲内への第三者の立入防止措置を行うこと。
- 3 工事期間中は、施工範囲内への立入防止措置を行い、第三者の安全を確保すること。特に、車道の規制を伴う場合の安全対策については、所轄警察署や監督職員と協議し、その指示に従うこと。
- 4 施工中の騒音、振動、粉塵等は極力抑えるよう努めること。
- 5 土、日、祝日については、原則施工を行わないこと。ただし、やむを得ず施工を行う必要が生じた場合は、あらかじめ監督職員の承諾を得ること。
- 6 着工前に、工事ビラ「〇〇工事のお知らせ」を監督職員の指示する範囲に配布すること。

第6条（施工時間）

施工時間は、下記工種以外は昼間施工とする。ただし、警察等との協議の結果、施工時間に変更が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

工種	種別	細別	標準作業時間
舗装工	路面切削工	路面切削	21時00分～ 6時00分
	切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	
	オーバーレイ工	表層(車道・路肩部)	
	アスファルト舗装工(車道部)-1	不陸整正、基層(車道・路肩部)、 表層(車道・路肩部)	
	アスファルト舗装工(車道部)-2	不陸整正、上層路盤、 基層(車道・路肩部)、表層(車道・路肩部)	
	アスファルト舗装工(仮舗装)	上層路盤	

区画線工	区画線工	溶融式区画線	21時00分～ 6時00分
構造物撤去工	構造物取壊し工	舗装版切断、舗装版破碎、	
	運搬処理工	殻運搬(路面切削)、殻処分(As殻(切削))、 殻運搬(As殻)、殻処分(As殻(掘削))	

第7条（工事規制）

本工事施工箇所は、京都市道路工事調整会規約施行細則第17条に掲げる工事規制のうち、次の各号の規制種別に係る規制路線及び地域内であることから、同条に基づく規制期間及び規制内容を遵守しなければならない。なお、規制範囲は歩車道を含めた全幅とする。

京都市道路工事調整会規約施行細則

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000003649.html>

規制種別	規制期間	規制内容
年末年始 規制	12月20日～1月5日	規制期間中は、新たな工事に着手し、又は工事区域を拡大してはならない。ただし、道路の仮復旧等、一般交通に開放するための工事はこの限りでない。

第8条（警察協議等）

本工事の No.7 付近の交差点の形状が変更になることに伴い、歩行者用信号機の設置を警察が検討している。現時点では、信号柱を設置するか決定しておらず、信号柱を設置する場合、設置位置や設置時期の調整が必要となる。

信号柱の設置に伴い、施工内容に変更が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

第9条（交通誘導警備員）

交通誘導警備員については、下表のとおり計上しているが、所轄警察署等との打合せの結果、又は条件変更等に伴い員数に増減が生じた場合は、設計図書に関して監督職員と協議するものとし、設計変更の対象とする。

配置場所	交通誘導警備員 (1日当たりの編成人数)	編成	昼間・夜間・ 24時間の別	交替要員の 有無
昼間施工箇所	1～2名	交通誘導警備員B 1～2名	昼間	無
夜間施工箇所	1～5名	交通誘導警備員B 1～5名	夜間	無

3 監督職員の確認に関する事項

第10条（材料確認）

受注者は、次表の材料・資材・製品について、監督職員が臨場のうえ、材料確認を受けるものとする。また、あらかじめ施工計画書に材料等の名称・規格等を記載すること。

受注者は、監督職員が材料確認のために臨場した際、当該材料等の製造者が発行する品質を証明する資料（見本を含む）との照合、搬入された材料等の外観（角欠け、ひび割れ等）、形状、寸法及び数量等の確認を受けなければならない。

ただし、監督職員の確認が机上となる場合、受注者は、当該材料等の外観、形状、寸法（幅、長さ、高さ）及び搬入数量等が判別できる写真記録等の資料（納品書、納品伝票も可）を監督職員に提出し、その確認を受けなければならない。

なお、受注者は監督職員の確認を得ずに、当該材料等を使用して工事を実施してはならない。

土木工事施工管理基準「品質管理基準及び規格値」に基づき実施する製品及び材料

材 料・製 品	備 考
プレキャストコンクリート製品 (JIS I 類、JIS II 類含む)	「品質管理基準及び規格値」 (区分・項目・方法・頻度)
アスファルト合材 (排水性舗装、透水性舗装、プラント再生舗装含む)	「品質管理基準及び規格値」 (区分・項目・方法・頻度)

監督職員の指定に基づき実施する材料・資材及び製品

(「品質管理基準及び規格値」に基づき実施する製品及び材料以外)

工種・種別等	細 別	材料・資材・製品
路側防護柵工	ガードパイプ	支柱、ビームパイプ等
防止柵工	転落(横断)防止柵	横断防止柵-1、横断防止柵-2

第 11 条（受注者の臨場）

監督職員が行う段階確認においては、主任技術者（又は監理技術者、或いは監理技術者補佐）又は現場代理人、若しくは、予め監督職員の承諾を得た者が臨場のうえ、確認を受けなければならない。

第 12 条（段階確認）

受注者は、「品質管理基準及び規格値」による段階確認項目及び次表の工種・種別等の施工段階において、監督職員が臨場のうえ段階確認を受けるものとする。また、あらかじめ施工計画書に確認内容を記載すること。

ただし、監督職員による確認が机上となる場合、受注者は、施工状況、出来形、品質、不可視部分等の判別ができる施工管理記録（出来形成果表、設計図面との対比図、品質管理記録等）と写真等の資料を監督職員に提出し、その確認を受けなければならない。

なお、受注者は監督職員の確認を得ずに、当該工種以降の作業を実施してはならない。

監督職員の指定に基づき実施する段階確認（「品質管理基準及び規格値」による段階確認項目含む）
 (「共通仕様書（3-1-1-4）」の「表 3-1-1 段階確認一覧表」に基づき実施する段階確認以外）

工種・種別等	細 別	確 認 項 目
路面切削工	路面切削	切削深さ、切削状況
切削オーバーレイ工	切削オーバーレイ	切削深さ、切削、転圧状況
アスファルト舗装工(車道部)-1、2	不陸整正、上層路盤、 基層、表層	敷均し、転圧状況

アスファルト舗装工(歩道部)-1、2	下層路盤、表層	敷均し、転圧状況
透水性舗装工	フィルター層、下層路盤、表層	敷均し、転圧状況

4 建設副産物に関する事項

第13条（建設副産物の適正処理）

1 建設廃棄物が発生する場合の対応

本工事の施工により発生する建設廃棄物は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律の許可を受けた施設へ搬出するものとする。

なお、下表は積算上の条件明示であることから施設を指定するものではなく、監督職員の承諾を得て搬出先の変更を行うことができるが、原則として設計変更の対象としない。

また、産業廃棄物が発生する場合は「京都市産業廃棄物の不適正な処理の防止等に関する条例」（最終改正平成23年4月1日）及び「京都市産業廃棄物不適正処理対策要綱」（最終改正平成16年4月1日実施）を遵守すること。

特に、マニフェストを発行して産業廃棄物が適正に処理されたことを確認すること。このとき、受注者が排出業者であることとして保管の義務のあるA、B2、D、E票については、その原本を監督職員へ提示すること。

<産業廃棄物>

建設副産物	受入場所	備 考
コンクリート塊 (無筋) 昼間	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第6項の許可を受けた施設 京都府綴喜郡宇治田原町大字禅定寺小字粽谷37番地	設計運搬距離 L = 24.5km
アスファルト・コンクリート塊 (切削) 夜間	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第6項の許可を受けた施設 京都府宇治市槇島町二十四10番1	設計運搬距離 L = 10.9km
アスファルト・コンクリート塊 (掘削) 夜間	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第6項の許可を受けた施設 京都府宇治市槇島町二十四10番1	設計運搬距離 L = 10.9km
廃路盤材	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第6項の許可を受けた施設 京都府京都市伏見区下鳥羽上向島町102	設計運搬距離 L = 9.1km

2 舗装切断時に発生する濁水及び粉塵

受注者は、舗装切断時に発生する濁水を回収し、産業廃棄物（汚泥）として「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理しなければならない。

また、受注者は、濁水が生じない工法（空冷式等）を採用した場合も、濁水と同様に、吸引する装置の併用など、粉塵飛散防止対策を実施するとともに、収集した粉塵については、産業廃棄物として

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理しなければならない。

当初設計には濁水及び粉塵の収集運搬及び処分に掛かる費用は計上していない。濁水処理費等が必要な場合は、設計変更の対象とする。

3 建設発生土が発生する場合の対応（指定地処分）

受入地が発行する書類、伝票などの写しを監督職員に随時提出するとともに、その原本との照合による確認を検査時まで監督職員に受けるものとする。

なお、建設発生土の搬出に当たり、仮置きが必要な場合は、沿道環境に配慮した搬出計画を立てるものとし、書面等により事前に監督職員の確認を受けること。

原則、下表に示す受入先へ搬出するものとするが、土質性状や搬入時期等により搬出できない場合は、監督職員と協議のうえ、その指示によるものとする。

ただし、実施日において、公共工事間で流用可能な場合は、工事間流用を最優先するものとし、設計変更の対象とする。

<建設発生土>

建設副産物	受入場所	備 考
建設発生土	(指定地処分) 株式会社 山正 京都市左京区北白川地藏谷町 1-211	設計運搬距離 L = 8.3km

本工事では土壤調査費等を計上していないが、建設発生土について、以下の事項のいずれかに該当する場合は土壤調査が必要となる。その場合は、設計変更の対象とする。

- (1) 指定している受入場所がある地方公共団体の関係法令に基づく土地の埋立等の許可を得た事業者である場合
- (2) 本工事の土砂等の性状（色、臭い等）や廃棄物の混入等の状況が埋立基準に適合しないおそれがある場合
- (3) 上記の(1)(2)以外に土壤調査が必要となった場合

なお、土壤調査を実施することとなる場合は、建設発生土の搬出前に土壤調査を実施し、以下の資料を監督職員に提出すること。

- (1) 土壤分析結果証明書（計量法第 122 条第 1 項の規定により登録された計量士のうち、濃度に係る計量士が発行した土壤の分析結果を証する書類（測定方法を明示したもの））
- (2) (1)の試料を採取した地点を示す図面及び当該地点の写真

4 建設発生土の受入地の変更

土質性状や搬入時期等により指定する受入地に搬出ができない場合、監督職員は京都市土木積算システム設計単価第 5 編及び公共物GISに掲載している他の施設の中から積算上の 2 番目以降の受入地（以下「積算受入地」という。）を順次指定し、受注者は搬出の可否を確認するものとする。

積算受入地への建設発生土の搬出について、監督職員と協議のうえ決定するものとし、設計変更の対象とする。

なお、受注者は、積算受入地に代えて、京都市土木積算システム設計単価第 5 編及び公共物GIS

に掲載している他の施設、又は廃棄物の処理及び清掃に関する法律の許可を受けた施設の中から別の受入地（以下「提案受入地」という。）を提案することができる。

提案受入地への建設発生土の搬出が適正であると認められる場合はこれを妨げないが、設計変更の対象としない。また、提案受入地での処分に掛かる費用が、積算受入地での処分に掛かる費用を下回る場合は、減額の設計変更を行うものとする。

5 スクラップについて

本工事の施工により発生するスクラップは、下表の条件で積算している。

なお、搬出先は必要な許可を有するものとし、その証明書の写し（搬出先を変更したときのみ）と処分量を明記した証明書（受入確認書等）を監督職員に提出すること。

建設副産物	受入場所	備 考
スクラップ (ヘビーH3)	京都市南区上鳥羽鉾立町 4 番地	設計運搬距離 L = 6.0km

第 1 4 条（特定建設資材の分別解体等及び再資源化等）

1 本工事は、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(最終改定令和 4 年 6 月 1 7 日)(以下「建設リサイクル法」という。)に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。

なお、本工事における特定建設資材の分別解体等及び再資源化等については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「6 解体工事に要する費用等」に定める事項は、契約締結時に発注者と受注者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上明示した以下の事項と別の方法であった場合でも設計変更の対象としない。ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難しい場合は、監督職員と協議するものとする。

分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工 程	作業内容	分別解体等の方法
	①仮設	仮設工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	②土工	土工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☒ 手作業・機械作業の併用
	③基礎工(杭基礎等)	基礎工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用
	④本体構造	本体構造の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☒ 手作業・機械作業の併用
	⑤本体付属品	本体付属品の工事 ☒ 有 ☐ 無	☐ 手作業 ☒ 手作業・機械作業の併用
	⑥その他()	その他の工事 ☐ 有 ☒ 無	☐ 手作業 ☐ 手作業・機械作業の併用

※ 特定建設資材廃棄物を排出する場合、再資源化施設等の所在地については、本特記仕様書

に示す「建設副産物の適正処理について」に記載のとおりとする。

- 2 受注者は、特定建設資材の分別解体等及び再生資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第18条に基づき、以下の事項を別に定める18条様式に記載し、監督職員に報告すること。

- ・再資源化等が完了した年月日
- ・再資源化等をした施設の名称及び所在地
- ・再資源化等に要した費用

なお、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を提出した場合、18条に基づく報告を省略することができるものとする。

5 その他事項

第15条（工事書類の提出）

完成検査の受検に向けた出来形図書については、工期末の1か月前までに提出すること。また、完成検査に必要な工事書類については、工期末の2週間前までに提出すること。

第16条（受注者希望型におけるICT活用工事の試行）

- 1 本工事は、「京都市建設局ICT活用工事試行方針（案）」（令和6年2月）（以下「試行方針」という。）及び「京都市建設局ICT活用工事試行要領（案）」（令和6年2月）（以下「試行要領」という。）の内容に従いICT活用工事を試行できる。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」⇒「高度情報化」参照
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000290097.html>)

- 2 試行の対象工種は「試行方針」に定めた工種とし、「試行要領」の対象工種の詳細に基づき、ICT活用工事を試行できる。
- 3 受注者が試行を希望する場合、契約後施工計画書の提出までに、受注者はICT活用の効果、具体的な工事内容・数量及び対象範囲について、発注者へ提案、協議を行うこと。発注者と協議が整った施工プロセス①～⑤の全て又は何れかの段階で、ICT施工技術を活用できる。

なお、試行の対象工種が土工、舗装工、舗装工（修繕工）の場合は、施工プロセス①、②、③又は②、④、⑤を含む3つ以上の施工プロセスの活用を基本とし、その他のプロセスを含め協議により選定できる。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ⑤ 3次元データの納品

- 4 ICT活用工事の費用については、当初は計上せず、発注者との協議が整った各施工プロセスの段階を設計変更で必要な経費を計上する。受注者は設計変更に必要な見積書を提出すること。
- 5 「試行要領」により有効に試行したことが認められた場合は、工事成績の「創意工夫」及び「工事特性」の項目で加点評価する。ただし、①3次元起工測量の1プロセスのみの活用は除く。

第17条（情報共有システムの利用）

- 1 本工事は、情報共有システム（以下「システム」という。）の利用対象とする。システムを利用しない場合は、監督職員から承諾を得るものとする。

システムの利用に当たっては、「京都市建設局情報共有システム活用ガイドライン（令和6年3月）（※）」（以下「ガイドライン」という。）を遵守するものとし、ガイドラインの内容を十分に確認したうえで事前協議を行うこと。

- 2 利用するシステムは、ガイドラインで定める要件を満たすシステムの中から、受注者が選定すること。
- 3 システムの利用に係る費用は共通仮設費率分に含まれており、システム提供者との契約や利用に係る手続等は受注者が行うものとする。
- 4 システムで発議・提出・受理などの処理を行った工事帳票は、「京都市建設局電子納品実施要領」（以下「要領」という。）に基づき作成された仕様の電子データで出力し納品すること。

なお、要領は適宜改正されることから、適宜、京都市情報館を確認すること。

※ 京都市情報館「トップページ」⇒「まちづくり」⇒「技術管理」参照

<https://www.city.kyoto.lg.jp/kensetu/page/0000280681.html>

第18条（受注者希望型における遠隔臨場の実施）

本工事は受注者の希望により遠隔臨場を行うものとする。

1 目的

本工事は、「建設現場の遠隔臨場に関する実施要領（案）」（令和5年3月）及び「建設現場における遠隔臨場に関する監督・検査実施要領（案）」（令和5年3月）の内容に従い実施するものとする。

2 実施内容

（1） 「段階確認」、「材料確認」及び「立会」の実施

ア 受注者が動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）により撮影する映像と音声を監督職員へWeb会議システム等を使用し、双方向の通信により会話しながら確認する。実施内容については、受発注者間の協議により決定するものとする。

イ 遠隔臨場に使用する動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の資機材は受注者が準備するものとする。ウェアラブルカメラ等の資機材は、使用製品を限定するものではなく、一般的なAndroidやi-Phone等のモバイル端末を使用することも可能である。ただし、監督職員が使用するパソコン等の機器・ネットワーク環境に適合する資機材を使用するものとし、資機材の選定に当たっては監督職員から承諾を得ること。

なお、動画撮影用のカメラ（ウェアラブルカメラ等）の使用は、「段階確認」、「材料確認」及び「立会」だけでなく、現場不一致、事故などの報告時等でも活用効果が期待されることから、受注者の創意工夫等、自発的に実施する行為を妨げるものではない。

（2） 効果の検証

遠隔臨場を通じた効果の検証及び課題の抽出に関するアンケート調査を実施する場合は、調査に協力するものとする。詳細は、監督職員の指示による。

（3） 費用

遠隔臨場の実施に掛かる費用については、積上げ計上していないが、「建設現場の遠隔臨場に関

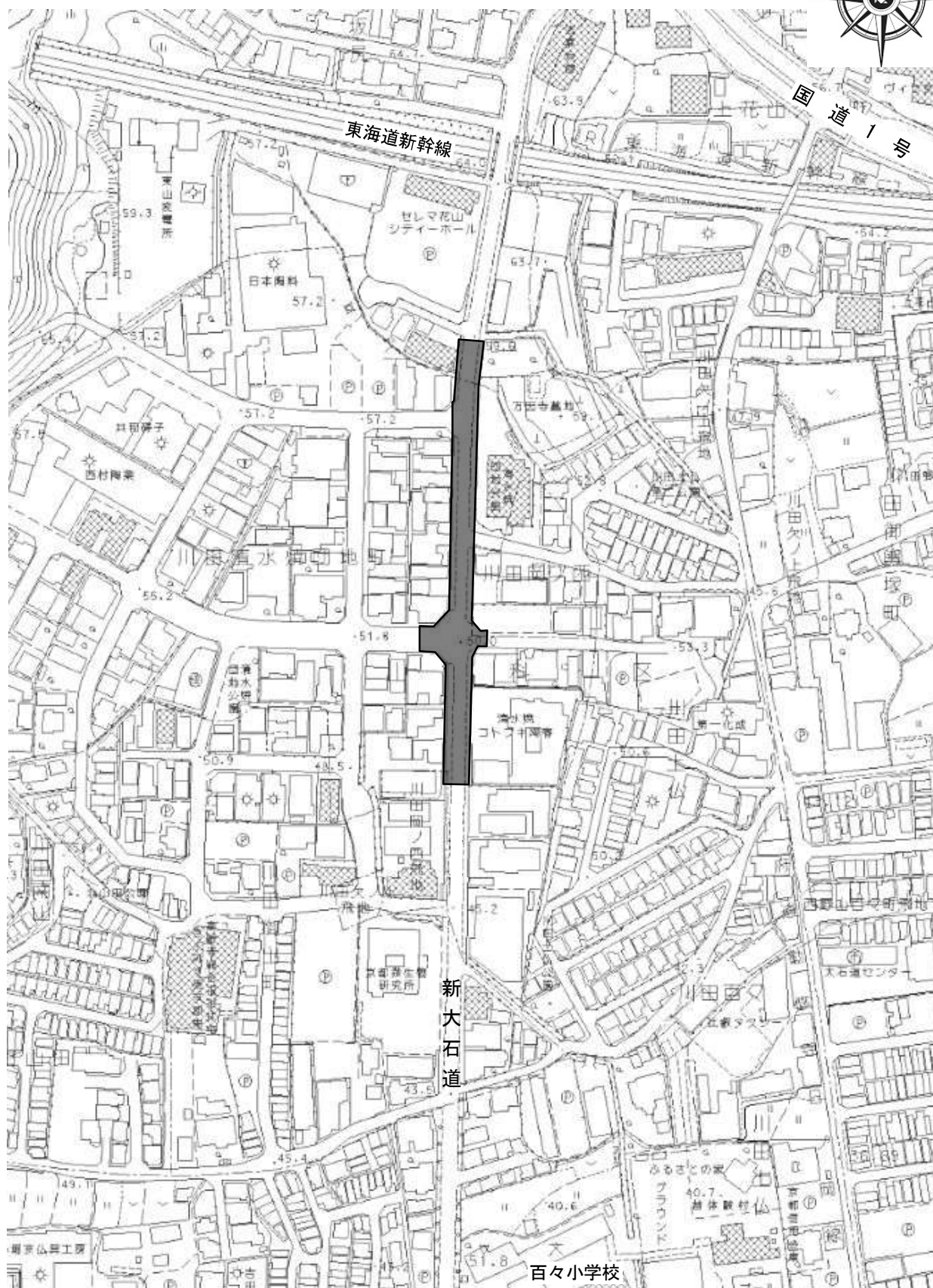
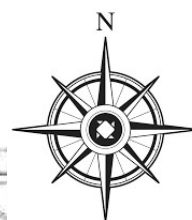
する実施要領（案）」（令和５年３月）の内容に従い、遠隔臨場の実施に要する費用を設計変更の対象とする。

なお、遠隔臨場の実施方法については、施工計画書提出までの協議において提案するものとする。
また、受注者はその費用について見積書を提出するものとする。

（４） 成績評価

遠隔臨場を実施した工事の成績評価は、考査項目「創意工夫」において、１点の加点とする。

箇所図



施工箇所